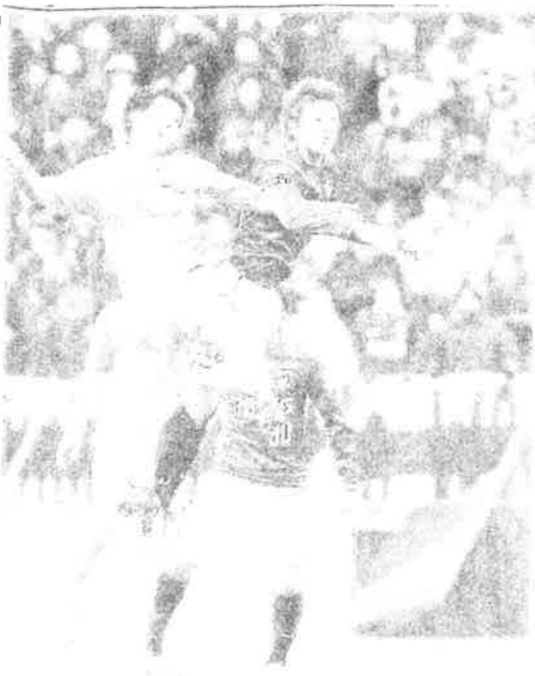
平和運動センター情報

号外 2014年3月14日

富山県平和運動センター発行



約4万3000人の観客が見守るなか、競り合う浦和の李忠成選手（右）と鳥栖の菊地直哉選手＝8日、埼玉スタジアム（共同）

浦和サポーターの横断幕問題

人種差別許さぬ議論を

鼓動

あまりに腹立たしく、残念な行為というしかありません。

8日、サッカーJ1の浦和―鳥栖戦（埼玉スタジアム）でのこと。浦和のゴールネット裏のスタジアムに入る通路に「JAPANESE ONLY」（日本人以外お断り）と英語で書かれた横断幕が掲げられました。その隣には日の丸が掲げられ、奥には旭日旗もありました。

浦和公式サイトによると、クラブ側は試合開始1時間後の午後5時ごろにこれを確認。試合終了後の6時になってクラブ側がようやく強制的に撤去しました。クラブは掲げた当事者に事情を聞いているといいます。

この横断幕はサポーターに向けたものといえるが、一部選手に対する差別的な表現だという指摘があります。しかし、どちらにしてもスポーツを冒瀆（ぼうとく）するものには違いありません。

選手が「残念」

試合後、浦和の槙野智章選手は自身のツイッターでこう憤りました。

「負けた以上にもっと残念な事があった…。浦和という看板を背負い、袖を通して一生懸命闘い、誇りをもってこのチームで闘う選手に対して、これはない。こういう事をしているようでは、選手とサポーターが一つになれないし、結果も出ない」

欧州サッカーの現場では、いまも選手に対する差別的なやじやピッチに物を投げ入れる行為が繰り返されています。国際サッカー連盟（FIFA）は人種差別撲滅に向け、本格的に取り組み、昨年5月の総会で懲罰を義務化しています。

一方、救われたのは、槙野選手の反応とともに、両国のサポーターの健全なエネルギーです。

翌9日、J2の試合で岐阜のサポーターは応援席に「人種差別に反対」との横断幕を掲げました。札幌のサポーターも「応援好きONLY」との横断幕を掲げたそうです。同じ8日にこの横断幕が掲げられた時、それを迅速に知らせ、クラブ側に抗議したのは、浦和のサポーター自身でした。

相互理解こそ

人種、宗教、身分、政治的な立場を超えて、一堂に会し、人々の相互理解を進めることにスポーツの本質があります。だからこそ、スポーツはこれまでも平和や民族融和に貢献できたのです。これを踏みにじる行為を許せば、スポーツは成り立ちません。

Jリーグも厳正な対応を検討しています。それは当然としても、これを機に、多くのサポーターがみずからの手で認識を深め合い、議論し合うことが、何よりも求められているように思います。

川内原発 審査終了の公算

規制委きょう会合で検討

原子力規制委員会による原発審査の流れ

審査が先行している原発

- 泊3号機（北海道）
- 大飯3、4号機（福井県）
- 高浜3、4号機（〃）
- 伊方3号機（愛媛県）
- 玄海3、4号機（佐賀県）
- 川内1、2号機（鹿児島県）

↓

12日の審査会合で川内1、2号機の地震、津波の想定に異論出ず

↓

13日の定例会合で川内を優先して審査書案を作成するか議論

↓

審査書案作成

↓

- 国民から意見募集（4週間程度）
- 立地自治体などで公聴会

↓

審査終了

河野談話維持 賛同1300人

国内研究者ら署名運動

日本国内の研究者グループが、従軍慰安婦問題に関する河野洋平官房長官談話の発展継承を求める研究者を対象とした署名運動を始め、賛同者が千三百人を超えたことが分かった。三十一日に記者会見を開き、日本政府に要望する予定で、賛同者はさらに増えそうだ。